

10月の園だより



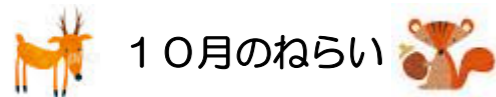
令和2年10月2日
鶴来第一幼稚園
園長 大角 智恵美

今日は金劔宮で神事が行われるようです。鶴来の街ではしめ縄が飾られ、いつも通りだったら獅子舞に遭遇したり、にぎやかな音が聞こえてきたりしていたでしょう。

今年の運動会のテーマに『お祭り』を選びました。造り物の館へ行ってから、年長さんの部屋ではオリジナルの造り物作りが始まりました。お祭り好きの子のスイッチが入り、その子の思いが周りの子も巻き込み、みんなのアイデアが詰まった作品になることでしょう。運動会当日に飾れたらいいなあ思います。

昨日は運動会の総練習をしました。朝、速く走れるようにと外履きズックを交換している子がいました。日に日に子どもたちの気持ちも高まってきています！6日は観客がいない運動会となりますので、練習と本番との違いが感じられるように考えていきたいと思います。

夕暮れ時は冷えるようになりました。少しずつ熱や咳での欠席の連絡が増えてきています。体調管理に気をつけながら、気持ちのいい秋空の下、元気いっぱい過ごしたいと思います。今月もよろしくお願ひします。



10月のねらい

少しずつ周りの景色が秋色に変わってきています。秋の自然との出会いによって、子どもたちの遊びがより豊かになるように、環境づくりを工夫していきたいと思います。

- つくし ○衣服や靴の着脱など、身の回りのことを意欲的に自分でしようとする。
○秋の自然に触れ楽しむ。
- 年少 ○友達と一緒に、簡単なルールのある遊びやごっこ遊びを繰り返し楽しむ。
○気の合う友だちと遊ぶ中で、経験や感情を言葉で伝え合う喜びを味わう。
○身近な秋の自然に触れて親しむ。
- 年中 ○経験したことを保育者や友達と再現したり遊びに取り入れたりして楽しむ。
○友だちとかかわる中で、自分の思いや考えをいろいろな方法で伝えようとする。
○秋の自然に親しみ、遊びや表現に取り入れて楽しむ。
- 年長 ○友達と目的を共有し、一緒に遊びを進めていく楽しさを味わう。
○互いの思いや考えを伝え合いながら、友達と一緒に遊びや活動を進める楽しさを味わう。
○身近な自然に興味や関心をもって関わったり、収穫の喜びを味わったりして、秋の自然に親しむ。



◇幼稚園バザー&廃品回収について◇

例年、第二幼稚園と合同で行っています幼稚園バザーですが、今年度は残念ながらいつも通りのかたちでの開催は中止とさせていただきます。これまで幼稚園バザーは「1. 子どもたちが健やかにたくましく育つために、園環境充実の収益を得ること」「2. PTA 会員相互の親睦を図ること」を目的に行ってきたので、その趣旨とはそれてしまうかもしれませんが、代わりに園内で子どもたちによるお店屋さんごっこを楽しみたいと考えています。ご理解いただきますようお願い致します。

- ・年少さんは色水遊びを楽しんだ経験から『ジュース屋さん』
 - ・年中さんは運動会のお祭りの流れで『縁日屋さん』
 - ・年長さんは大好きな昆虫館を再現して『たいよう昆虫館』
 - ・『先生たちのお店』
- を作る予定です。

お店屋さんごっこは23日(金)に開催し、子どもたちがお店屋さんとお客さんに分かれて、またお客さんは縦割りのグループを作ってお買い物を楽しみたいと思います。

また、バザーで「限りある資源を大切にしながら、ごみの分類、ごみの減量、もったいないを合言葉に」行ってきた経緯を受け、お店屋さんごっこと同時に廃品回収も行います。子どもたちに物を大切にする心を育ててほしいと思います。

実施日	10月19日(月)～23日(金)
回収時間	午前8時～10時、午後14時30分～16時
回収場所	バス車庫
種類	古新聞・古雑誌・段ボール・牛乳パック
お願い	○ご近所(2～3軒程度)への周知として、別紙の配布をお願いします。 回収日時は各自でご記入ください。



- 古新聞と広告雑誌は分けて、しっかり紙ひもで縛ってください。
- バス車庫にコーナーを設けますので、お子さんと一緒に持ってきてください。
- ◎小さな再利用品/手作り品コーナーも設けたいと思います。下記の物を集めますので、お家にある方は16日(金)までに幼稚園へお持ちください。
 - ・再利用品…制服、体操服、洗剤、ティッシュペーパー、消毒剤類に限る
 - ・手作り品(マスクや絵本バック、アクセサリなど)

収益金は、園環境の充実に充てさせていた抱きたいと考えておりますので、みなさまのご理解とご協力をお願い致します。



新型コロナウイルスの感染拡大以降、自分や家族、あるいは幼稚園の先生や子どもたちの健康や体調について、また生きるということについて考える機会が増えました。一人ひとりの子どもが、強くたくましく歩いていけるように、教育方針に掲げてある「自立して」生きる力、「自分らしく」生きる力、「人と共存しながら」生きる力を、改めて心に刻んで子どもたちと関わっていきたくて思いました。

